慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	森, 征一(Mori, Seiichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2003
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.76, No.12 (2003. 12) ,p.v- vii
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	鷲見誠一教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20031228--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

鷲見誠一教授が、明年三月をもって、定年により、慶應義塾大学法学部を退職されます。法学部にとって、法科大学院開校と並行して行われてきた法学部改革がいよいよ本格化するこの時期に、先生を失うことは、誠に残念ではありますが、定年制度が設けられております以上、これは如何ともしがたいことです。

先生は、昭和三九（一九六四）年に法学部助手に就任されて以来、一貫して政治思想史の研究と教育に当たられ、多数の有為の人材を社会に送りだしてこられました。

先生は政治思想史の研究者として、これまで、一四世紀前半に活躍したイタリアの神学者・哲学者マルシリウス・パドゥアの政治・法思想のご研究を通して、ヨーロッパ近現代文化の原型となっている中世ヨーロッパの精神文化の基本構造の解明に努められ、わが国における政治学の発展に多大な寄与をなされて、慶應義塾大学法学部の名を高らしめました。

先生の著作を読んで感じますことは、現在の高みから過去を一方的に断罪するようなことはせず、現在は当然ながら歴史の果てにあるという視点から、トマス、アウグスチヌス、マルシリウスといった過去の思想家を暖かい眼差しで観察し、その心意を明らかにしていることです。先生がとくに関心を持たれたマルシリウスに関しては、その政治思想を法理念の側面から切り込み、社会思想にまで拡大して分析して、その中に世界を普遍的なものと特殊的なものとの調和関係として把握するというヨーロッパ人に特徴的なものの見方を読みとられました。

先生のマルシリウス・パドゥア研究はわが国における中世ヨーロッパ政治思想史の先駆的かつ本格的な業績であり、先生がこの分野の第一人者であることは異論のないところです。しかし先生は他方で、マルシリウス研究をヨーロッパ政治思想史の全体の中に位置づけようとされ、それをジョセフ・ストレイヤー『近代国家の起源』をはじめとする、時代の底流を考察した定評のある一連の研究書の翻訳という形で示されました。先生が苦労の多い翻訳をあえて行われたのは、あるいは先生ご自身のマルシリウス評価が独断に陥ることを警戒されたからかも知れません。先生が第一級の優れたヨーロッパ政治思想史家であることは、これまで公刊された多くの著書、論文、翻訳そのものが物語っておりますが、また、先生が政治思想学会の理事を長く務められ、学界を指導されておられることからも、歴然であります。

以上のように、研究者として貫き通された先生は研究の面で多くの足跡を残されました。また、学内行政の面でも国際センター学習指導主任、学生部副部長、教職課程センター学習指導副主任を皮切りに様々な要職につかれましたが、とくに平成八年から一四年まで言語文化研究所長として活躍され、慶應義塾および法学部の発展に尽くされました。

私事で申し上げれば、法律と政治の違いはあれ、先生と私の研究領域が同じ中世ヨーロッパであったことから、先生からいただいた著作から学問的に多くのことを教えていただきました。また、教育者としての先生からは、何事も信念を持ってやり遂げなくてはならないということを学びました。

先生には『ヨーロッパ文化の原型―政治思想の視点より―』という著作があります。本書はヨーロッパ文化全体に対する深い洞察と教養が感じられて、私の好きな本の一つです。先生はその「あとがき」で次のように語られました。ヨーロッパ精神とは「自国の利益と名誉を世界全体とのかかわりの中で追求しようとするその精神的姿勢」のことであり、ヨーロッパ人に「国際感覚があるというのはこのことなのです。」こう述べられて、先生

は私たち後輩に対してこれからの生き方の指針を示されました。

法学部教授会はさきに、先生の慶應義塾および法学部への長年にわたる多大なご貢献に感謝の念を表し、名誉教授の称号授与のご推薦を申し上げましたが、この度はあらためて先生の偉大なご功績を称え、ここに『法学研究』退職記念号を献呈させていただきたいと思います。

私ども後進に研究教育活動の範を示されました先生の御退職は誠に残念ではありますが、先生には今後もいろいろとご指導いただけるものと確信いたしております。最後に、先生のますますのご壮健とご活躍を同僚一同とともに心より祈念申し上げます。

二〇〇三年一二月

法学部長　森　征一